
特集「縦隔・胸壁腫瘍に対する低侵襲手術」によせて

千田 雅之

(獨協医科大学呼吸器外科)

1990年代に呼吸器外科領域に胸腔鏡下手術（VATS）が導入されて以来、大半の肺癌手術はVATSで行われるようになってきている。近年はロボット支援下手術（RATS）が保険適用となり手術数が急増しており、肺癌手術の3割に及ぼうという状況となってきている。肺癌手術に対する低侵襲手術はこれまで多くの媒体で取り上げられてきたが、縦隔・胸壁腫瘍への低侵襲手術という切り口は少なかったように思う。

本特集では、15の施設から縦隔・胸壁腫瘍に対する低侵襲手術の報告をいただいた。従来は正中切開で行われていた、前縦隔腫瘍や重症筋無力症に対する拡大胸腺摘除術が、VATSやRATSに置き換わってきている現状がよくわかる報告となっている。また施設によって、VATSにしるRATSにしる、側胸部アプローチであったり剣状突起下アプローチであったり、多彩であることがわかる。また、非定型的なアプローチの報告やシミュレーションの報告もある。今回、便宜的にRATSとして6報告、VATSとして9報告と、小項目を分けてまとめているが、VATSに分類されている報告にRATSが含まれていたり、厳密に分けられるものではない。VATSの経験でもRATSに応用が利くような情報もある。

これらの15の報告には、各施設のこだわりやいろいろな知恵が詰まっている。ぜひ、手術に役立つ情報を引き出して日々の診療に役立てていただければと思う。